各教科等における「令和8年度の重点」
《中学校》

質の高い学びを実現する授業改善に向けて

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として、「生きて働く『知識及び技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力、判断力、表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力、人間性等』の涵養」が示されています。これらの資質・能力を育成するため、徳島県教育委員会では、１人１台端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら問題を見いだして解決策を考えたりするなど、学校教育における質の高い学びの実現を目指します。

さらに、多様で複雑な現代社会を生きていく子供たちには、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、必要な情報を取捨選択し、選択した情報を解釈したり活用したりする力などが求められます。このような力を「徳島版読解力」と定義し、すべての教科等において、その育成を図ります。

「徳島版読解力」を構成する「５つの力」

１　正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

２　必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

３　比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

４　見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

５　発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力

徳島県教育委員会

中学校の各教科等の重点

外国語	**目指す子供の姿** ○外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。 ○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。 ○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
	目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容 **①言語活動の充実** ◇コミュニケーションの目的・場面・状況を明確に設定し、生徒が自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動の充実を図る。 ◇単元など内容や時間のまとまりを見通して、「言語活動→言語材料等の指導→言語活動」といった授業展開で、学習した語彙、表現などを繰り返し活用させながら学習事項の定着を図り、内容面・言語面からの指導を充実させ、表現する力を高める。 ◇「徳島版読解力」を基に、言語活動の充実を図る。 ◇「徳島ＩＣＴ活用モデル」を基に、１人１台端末や学習者用デジタル教科書などを有効活用するとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していく。 ◇「徳島版小中高連携チェックリスト」を活用し、校種間のつながりや連携を意識して授業を行う。 **②４技能５領域（聞くこと、読むこと、話すこと［やり取り］、話すこと［発表］、書くこと）を関連付ける指導** ◇領域間の統合的な授業展開（例えば、読んだものについて、感想や自分の考えなどを話したり書いたりするなど）になるよう工夫し、年間を通じて４技能をバランスよく育成する。 ◇生徒が「できること」を実感できるように評価方法を工夫するとともに、小中高の連携を意識したＣＡＮ－ＤＯ型学習到達目標を設定し、生徒と目標を共有することを通して、指導と評価の一体化を図る。